

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1070700347		
法人名	館林衣料株式会社		
事業所名	グループホーム 多々良の里		
所在地 (電話番号)	群馬県館林市木戸町539	(電 話)	0276-72-4363
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5		
訪問調査日	平成 20年 2月 20日		

【情報提供票より】(20年 1月11日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	1階8人 2階7人
利用定員数計	18 人
常勤1階8人2階7人, 非常勤0人, 常勤換算 1階8人2階7人	

(2)建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄骨造り2階建て	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1200 円	

(4)利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	9 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81.6 歳	最低 72 歳	最高 98 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	館林厚生病院、根本歯科、小曾根整形外科、堀越医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者・職員一同は利用者のその人らしさを大切にしたい思いを共有しており、利用者一人ひとりのペースを尊重し支援を行っている。利用者の持っている能力に応じた生活役割を担当してもらい楽しみながら発揮してもらっている。管理者はケアの質の向上は職員が学ぶことが大切と考え、研修には積極的に参加をさせて報告をしてもらい全職員で共有するようにしている。職員の意見を吸い上げて、意見交換を行いながらアイデアや工夫をケア実践に活かす取り組みをしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	鍵を掛けない工夫では職員が管理できる時間は開錠している。職員は鍵をかけることの利用者への弊害を理解しており開錠する時間を増やすなどの検討が続けられている。また外出支援では職員で話し合い月に一度は外へ出かけることを話し合っている。公園での食事、庭でのお茶、買物、ドライブ、など外出の機会が増えている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的は理解している。職員にアンケート等もとっている。今回の自己評価はそのアンケートや意見ノートなどを参考にして管理者が作成した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催をしており、事業所から利用者の状況や行事等の報告を行い、参加者から意見や要望を受けて話し合っている。会議での意見等はサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月に一度は家族が利用料の支払いを兼ねて来所するため面会がある。その時家族から心配事、意向などを聞き相談を受けている。苦情箱が設置されているが、面会の時にもそれとなく会話の中に要望を聞き出している。面会時以外にも電話により家族の意向を聞き運営に反映をさせている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の人たちと散歩の時挨拶を交わす、幼稚園の運動会に参加、古新聞の回収協力等で連携を図っている。事業所としては自治会に加入はしていないが、同敷地の代表者の家に来る回覧板で地域の情報が得られている。系列の施設(デイサービス)を地域の方に開放しており、詩吟等の集まりに利用してもらっている。デイサービス利用者とはイベントに参加し交流を図っている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初よりの事業所独自の運営理念はあるが、地域密着型サービスとして地域との関係性を重視した理念の見直しはしていない。	○	利用者が地域の中でその人らしく生活することを支える地域密着型サービスの役割を全職員で考えながら、事業所独自の理念をつくりあげてほしい。
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼の時などに全職員で確認し合っている。また倫理研究の参考書を全員で読み上げている。職員が共通の理念を共有できるように努力している。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣者と散歩時に挨拶をする、幼稚園の運動会に参加、古新聞回収に協力する、ボランティアの受け入れ等地域との付き合いをしている。系列のデイサービス利用者とイベント等でお互いに行き来し交流を図るようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス向上委員会を作り、前回の改善項目には職員一同で取り組んだ。職員にはアンケートを配り、意見を聞いている。鍵の件は改善され、施錠を常態化しないようにした。外出支援では月に一度は外出する事を取り決めた。今回の評価は職員のアンケートに基づき管理者が記入した。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催しており、事業所から利用者の状況や行事等の報告を行い、参加者から意見や要望を受けて話し合いをしている。会議での意見等はサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は介護認定申請や代理業務などで積極的に市の担当窓口に出向き連携を図っている。また情報の交換も行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に「多々良の里新聞」を発行し、個別に一言添えて、写真等を家族へ送っている。来訪時には日ごろの暮らしぶりや身体状況を報告している。また、電話等で報告をしている。金銭管理は定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には何でも話しやすい雰囲気づくりに留意している。意見箱の設置や運営推進会議に家族に参加してもらい意見、苦情、要望をうけ運営に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にしている。利用者への影響が大きくならないよう、一人ひとりの対応の仕方を検討している。また利用者へ説明をするようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には積極的に研修に参加してもらっている。研修により質のレベルアップにつなげている。管理者は新しく入職した職員に対して、理念など時を見て話している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に入っている。研修などにも積極的に参加している。交換研修を行っている。地域のブロック研修にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に本人と家族に施設を見学してもらっている。施設の雰囲気を会話やお茶など飲みながら体感してもらい、納得してから入所に結び付けている。また入所間もない利用者さんには家族に泊まってもらう宿泊支援などもある。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩として尊敬し、日常の生活の場面で人生の体験や生き方等の話を聞かせてもらい、職員は学ぶことが多く、人生勉強になるという事を共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の人が面会に見えたときに情報を集め参考にする。また親族の人が面会に来たときにも話を聞く。認知症状が重くその人の意向など汲み取れない場合などは様子を観察し職員が経過を見ながら、興味を持ちそうなことを推測し、日々のケアに活かすようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日ごろのかかわりの中で思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。カンファレンスで職員が話し合い、それぞれの気づきや意見を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度行われている。また状況の変化により見直しがされているが月に1度のモニタリングが行われていない。	○	状態が安定していても月に一度のモニタリングを行い介護計画への反映をしてもらいたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診は原則家族支援だが家族の事情に応じては柔軟に対応している。また利用者の希望によって買物、外出などの支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の主治医が継続されるようになっている。家族の希望により施設のかかりつけ医や近所の医師への変更は自由に出来る。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に入院等の取り決めは家族に説明しており、状態の変化に伴い家族、医師、事業所等でその都度話し合いを行い、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護について管理者は職員に守るべき義務として話している。また職員間でも話し合いがもたれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先しないで、ゆったりとしたペースで過ごせるよう支援をしている。またサービス向上委員会があり職員はケアの振り返り等行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しく食事が出来るように支援している。利用者の好みを取り入れたりメニューを書く、テーブルを拭く、お絞りを配る、配膳、片付け等職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められているが、利用者の体調や希望、タイミングに合わせて柔軟に対応し気持ちよく入れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過去の生活歴を活かした支援をしている。書道の上手な人にはメニューを書いてもらっている。落語の好きだった人にはCDの落語を聞いてもらい、清掃、日めくりカレンダーの担当の人、エプロン配り、新聞配り、カラオケ、音楽会など希望者は出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買物等には利用者と出かけている。近くにある公園での食事、天気の良い日の散歩、施設外でのお茶やお昼、体操など職員は外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関やホールの鍵は職員の見守りが強化できる時間帯に安全面に配慮しながら短時間から開錠するようにしている。職員は施錠の常態化はしないように努力を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回防災訓練、消火訓練を行っている。地域の人達には運営推進会議で協力の要請がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「食事量チェック表」に記録をし、職員は情報を共有しているが、水分はコップの大きさで大まかに把握しているだけで、水分量の記録はされていない。	○	水分補給は身体状況の急変を招くことも考えられる。地域柄水分補給には注意されているが、日々の水分量の記録をするようにしてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはお雛様が飾られている。利用者や面会者に季節感を与えている。共用空間には畳の場所があり、在宅の雰囲気を出している。またリビングから厨房が見え食事作りの様子やご飯が炊ける匂い、食器を洗う音等で家庭的な感じが感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具、テレビ、絵画、ポータブルトイレ、ソファ、など馴染みのものが持ち込まれている。それぞれの個性に合わせた居室になっている。		